

社会福祉法人 慈青会
令和5年度 事業報告書

1. はじめに（総括）

令和6年1月1日、誰もが新しい年の平穏と多幸を願う元日に能登半島を襲う地震が発生しました。自然災害への備えの重要性に関し、法人や施設、地域と共有し、事業継続計画（BCP）を実践していかなければならないと実感させられた出来事でした。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類となったものの、未だ感染者が後を絶たず、さらに物価高やエネルギー価格の高騰、また、開設当初からの問題であり、介護業界全体の悩みでもあります介護職員の人材不足が顕著になっています。介護職員の退職は、「介護の仕事がきつい」、「家庭の事情」、「人間関係」が主な要因となっております。このような状況において、施設運営をささえている職員のために、日々の業務を見直し、人材の適材適所などを常時考えていきたいと思っております。

法人経営の重要な拠点である「グループホーム合浦」が、令和5年6月に開設しました。令和5年9月までは順調に入居率を上げていましたが、10月以降は、職員不足により入居を一時見合わせるという事態になりました。緊急入院により退所となったケースもありましたが、その後は職員と利用者が増加し、満床に近づいております。以下に令和5年度における活動内容を報告します。

2. 総務・会議について

理事会（内部監事監査）、評議員会を開催しました。主な内容は以下のとおりです。

(1) 理事会（内部監事監査）・評議員会の開催日及び審議内容、審議結果事項

① 理事会（内部監事監査）

開催日(決議の省略)	審 議 内 容	審議結果
令和5年6月2日	監事による財務諸表等、事業内容の決算監査	—
令和5年6月12日 第1回理事会	第1号議案 令和4年度事業報告及び付属明細書の承認 第2号議案 令和4年度計算書類及び付属明細書並びに財産目録の承認 第3号議案 令和5年度資金収支予算書の補正の承認 第4号議案 次期役員候補者について 第5号議案 就業規則変更について 第6号議案 定時評議員会の招集 報 告 事 項 理事長の業務報告	可決 可決 可決 可決 可決 —
理事監事出席状況	理事 6人（定数6人）、監事 2人（定数2人）	—
令和5年6月28日 第2回理事会	第1号議案 理事長選任	可決
理事監事出席状況	理事 6人（定数6人）、監事 2人（定数2人）	—
令和6年2月26日 第3回理事会	第1号議案 グループホーム合浦への出向契約について 報 告 事 項 理事長の業務報告 令和5年4月から12月までの経営・財務状況報告	可決 — —

理事監事出席状況	理事 5人（定数6人）、監事2人（定数2人）	
令和6年3月25日 第4回理事会	第1号議案 令和5年度資金収支予算書の補正について 第2号議案 令和6年度事業計画について 第3号議案 令和6年度資金収支予算について	可決 可決 可決
理事監事出席状況	理事 5人（定数6人）、監事2人（定数2人）	

② 評議員会

開催日(決議の省略)	審議内容	審議結果
令和5年6月28日	第1号議案 令和4年度計算書類及び付属明細書並びに財産目録の承認 第2号議案 役員の選任について 報告事項 令和4年度事業報告及び付属明細書	可決 可決 —
評議員出席状況	評議員 5人（定数7人）	—

3. 職員配置の状況について

令和6年3月末時点の職員配置は次表のとおりです。

① 特別養護老人ホームささえ

	施設長	生活 相談員	介護職員	看護職員	指導員 機能訓練	専門員 介護支援	士 管理栄養	調理員	医師 (嘱託)	その他	実人数 合計
職員数	1		13 (1)	3			1	3	1	4 (4)	26
		兼務有 1	兼務有 4	兼務有 3	兼務有 1	兼務有 1					

※上段は実職員数、中段は（内パート職員数）、下段は他職との兼務の有無 有の場合「兼務有」と表記

② グループホーム合浦

	管理者	介護職員	担当者 計画作成	実人数 合計
職員数	1	12		13
	兼務有 2	兼務有 1	兼務有 1	

※上段は実職員数、中段は（内パート職員数）、下段は他職との兼務の有無 有の場合「兼務有」と表記

4. その他法人運営について

当該年度特になし

5. 年間目標について

(1) 新規事業への取り組み

6月に新規事業の認知症対応型共同生活介護（グループホーム2ユニット18名）を開設し、準備期間を経て7月より利用者の受け入れを行いました。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所からの紹介も多数ありましたが、職員不足により受け入れを一時見合わせることもありました。

職員と利用者、家族も含めて信頼関係づくりを意識しました。コロナ禍において、常時情報の共有に努め、利用しやすい環境を整えました。

(2) 地域貢献

感染拡大の波より、地域活動への参加は一進一退が続きましたが、地域ケア会議や包括支援センターとの連携継続に尽力しました。

また、地域ねぶたや青森ねぶたへ参加し、地域の方々との交流を持つことができました。地域ねぶたは、感染予防のために外出や面会が制限を余儀なくされていた利用者には大変感激するものになりました。

(3) サービスの質の向上と安定的な稼働率の確保

施設内外の研修に参加し、習得した知識や技術を皆で共有することにより、日々のケアに反映することができました。随時、職員と個々に話し合いできる体制を強化し、実践を重ねることによりサービスの質を継続的に確保できるように支援しました。特養ささえとグループホーム合浦が連携を図り、利用申込等の情報を共有し、稼働率確保につなげる取り組みを行いましたが、稼働率の向上には至りませんでした。

(4) 人材確保（人材育成）

新規事業であるグループホーム合浦の職員募集がスムーズに行かず、利用申込と職員数の溝が埋まらずに苦戦しました。介護職員不足を補うため、常時介護職員募集の策を講じましたが、一定の職員を採用するに至らず苦しい状況が続いています。研修報告や朝の引き継ぎ、月1回のミーティングにおいて情報や変更事項、または苦情や要望を報告しあいながら業務にあたってきました。

6. 健康管理について

健診等規程に則り、職員の定期健康診断、夜勤者の特殊業務従事者の健康診断、雇入時健康診断、給食職員の検便検査等、新型コロナウイルス・インフルエンザ予防接種を行いました。

7. 安全管理について

消防設備点検（㈱青森ドライヴメカ）、電気設備点検（東北電気保安協会）、受水槽の清掃及び点検、井戸水水質検査、レジオネラ菌検査、施設内を大掃除、各種機器自主点検を年間計画に沿って行いました。

井戸水活用による融雪及び空調設備の使用によるランニングコスト（電気料）などの工夫を、今後行っていきたいと考えています。

特別養護老人ホームささえ
令和5年度 事業報告書

① 年度の利用状況

利用者の状況（定員 29 名）

	延べ利用者数				平均 介護度	日数	利用率
	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	2,466	4,261	3,080	9,809	4.20	9,809	92%
前年度	2,182	3,267	4,393	9,842	4.17	9,842	92%

② 利用者の年齢状況

	70歳 未満	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100歳 以上	計	平均 年齢
男性	0	0	0	1	1	2	1	0	5	88.6
女性	0	1	1	4	4	8	4	2	24	93.3
総数	0	1	1	5	5	10	5	2	29	89.6
前年度	1	1	1	1	8	9	6	2	29	90.3

③ 介護度状況及び入居前の居所

	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均 介護度	利用者の前住所地		
						港町地区	その他	計
男性	2	3	0	5	4.3	0	5	6
女性	4	12	8	24	4.1	0	24	24
総数	6	15	8	29	4.2	0	29	29
前年度	8	8	13	29	4.2	0	28	29

④ 令和5年度【事故報告 ヒヤリハット】

発生年月	報告形態	件数	事故内容
4月	事故報告	2件	(表皮剥離 皮下出血 打撲痕) (転倒の危険があった)
	ヒヤリハット	1件	
5月	事故報告	6件	(爪切り介助時傷つけてしまった。転倒3件 腕に内出血 下肢に内出血) (転倒しそうだった)
	ヒヤリハット	2件	

6月	事故報告	2件	車いすから立ち上がり転倒、倒右上腕に紫斑があった
	ヒヤリハット	1件	他利用者の食事を食べる場所だった
7月	事故報告	1件	服薬ミス
	ヒヤリハット	4件	転倒しそうだった
8月	事故報告	4件	車いすより滑り落ちる、胸部に紫斑、服薬ミス、尻もちをつく
	ヒヤリハット	1件	配膳ミスする危険があった
9月	事故報告	4件	服薬ミス、転倒し膝に擦り傷、他利用者の残食を食べていた、ポットの汚れを落とすためクエン酸を使用したを忘れてそのまま使用してしまった
	ヒヤリハット	2件	服薬ミスの危険があった、転倒の危険があった
10月	事故報告	2件	造花の実を口に入れ噛んだ、ベッド脇の床に横になっていた
	ヒヤリハット	1件	服薬ミスの危険があった
11月	事故報告	0件	
	ヒヤリハット	0件	
12月	事故報告	6件	服薬ミス、車いすより滑り落ちる、夜間ホールの床に座っていた、腕に内出血、他利用者のおやつを食べていた
	ヒヤリハット	3件	転倒の危険があった
1月	事故報告	2件	服薬ミス、車いすに座ろうとして尻もちをついた
	ヒヤリハット	1件	転倒の危険があった
2月	事故報告	4件	服薬ミス、車いすから転落、ベッド横の床に寝ており、背中に表皮剥離あり、転倒したと自己申告
	ヒヤリハット	1件	服薬の危険があった
3月	事故報告	4件	車いすから転落、服薬ミス、上半身広範囲に内出血、入浴介助時洗面器が下肢にあたり内出血
	ヒヤリハット	1件	服薬ミスの危険があった

⑤ 各委員会

当法人には、施設内のサービスの質の向上、施設内のマニュアルの作成および研修の計画等のために各種委員会活動を行いました。各委員会とは以下のとおりです。

・ 身体拘束廃止委員会

身体拘束等の適正化のための指針を整備し、身体拘束適正化に向けての現状把握及び改善について検討しています。

身体拘束にはどのようなことが当てはまるのか、介護職員が気づかずに身体拘束をしていないか、見える拘束、見えない拘束などについて、職員の知識の向上を図りました。身体拘束に対する理解の徹底を図る事により、日常的に行われている行為の中で利用者精神的及び身体的ストレスを掛けていないかの検証を行い、身体拘束に対する意識を図り実践してきました。

・事故発生防止委員会

ヒヤリハット報告書や事故報告書を基に、原因や傾向を分析および集計をし、事故の再発防止について検討する事故防止委員会において、その目的を達成するために、事故報告書による要因分析やヒヤリハットの集計をし、日々の介護の中から可能な限りの情報を収集し、しかるべき対策を練り、それが実行されているかを確認し、利用者の安全性を確保できるよう努めました。事故を分析する事により、事故予測を行い、事故を未然に防ぐ、最小限度にとどめる形を作り、取り組んでいます。

・虐待防止委員会

虐待防止チェックリストを活用して、日頃の利用者支援が適切に行われているかの確認、課題の共有、事業所の実態に則した検証等を行いました。

また、利用者支援の質の向上を目的とした全体での職員研修会を開催しました。

・褥瘡対策委員会

褥瘡の発生予防、重度化防止の取組を行いました。利用者に褥瘡は作らない、悪化させないことを目的に、月1回の褥瘡予防委員会を開催し、スケール評価を行い褥瘡対策に取り組みました。

活動内容は、毎月発生状況報告をし、発生月があった場合に経過報告と今後の対応について話し合い、対応後の状況報告を行い、対策を図っています。発生時から完治までの状態がわかるように写真を添付しています。また、研修会も行い、全職員で取り組み、早期発見と予防に努めています。

・感染対策委員会

今期は、特に新型コロナウイルス感染症に対する予防のため、社会情勢や感染者数等の情報を共有し、対策を講じました。それに対する必要な研修会にも力をいれてきました。

その他感染症を予防するため、種々の感染症の理解と予防する知識、ケア技術が必要なため、全職員向けに勉強会などの取り組みを行っています。引き続き、全部署による集団感染予防に対するさらなる徹底と、発生時の対応について十分な話し合いを重ね、訓練・シミュレーションを行いました。

⑥ 給食会議

毎月1回、会議を開催し、検食結果の振り返り、食中毒予防等について検討を重ねました。また行事食の検討や提供方法、食に関する嗜好調査結果の報告などを行いました。

食事の提供状況（人）

	普通	一口大	刻み	ソフト食	経管栄養他	計
当年度末時点	3	7	13	6	0	29
前年度末時点	3	4	5	14	3	29

1. 医務について

① 健康管理

利用者の健康管理については、配置医、看護職員と介護職員等との間で情報交換、情報共有を図り、疾患の早期発見と早期受診につなげました。口腔内については、訪問歯科の協力を得て、毎週1回受診する機会を提供しました。ワーファリン服用、糖尿病、心不全などの疾患に応じて毎月、または2か月に1回の採血を実施しました。また、各ユニット職員と情報を共有し、急変時には速やかに主治医に報告し指示を仰ぎ、救急搬送や適切な対応を実施してきました。

② 看取りケア

昨年度退居された方は19名で、その内看取りによる退居は16名でした。特養の入所要件が介護度3以上のため、入居から看取りに至るまでの期間が短くなってきています。看取りケアとは入居されたときから始まっており、入居者・ご家族・職員が日々の生活を通じ、信頼関係を積み重ねた結果迎えるケアでもあります。ただし上記のような理由から今後は十分な信頼関係を結ぶことができない中での看取りも多くなるように感じています。

コロナ禍のため面会制限の中、看取り期には面会できるように対応してきましたが、果たして利用者、ご家族にとって満足したものになったかは不安が残りました。今後の課題として取り組みます。

食事摂取が困難になった方への対応として、飲み込むことは出来なくなっても、嗜好品のみの提供や食べられる工夫がもっとあったのではないかと感じています。

③ 感染症対策

感染症予防のため、衛生管理に留意しました。利用者や職員に対し、新型コロナウイルス、インフルエンザ予防接種を実施し、まん延防止に努めました。また、職員の体調管理や面会制限等の対策を実施し、利用者や職員の健康管理に努めました。

2. 機能訓練について

① 実施訓練

利用者の機能に合わせ、日常生活の中で食事や排泄、入浴等の生活リハビリを実施し、計画書に沿った訓練の実施を行いました。十分とは言えず、今後の課題とします。

② 機能訓練管理

利用者の状態を把握し、事故防止に努めながら、少しでも自分でできることを長く続けていけるよう個々に適した機能訓練やリハビリを行ってきましたが、さらに評価を基に取り組む必要がありました。

③ 機能訓練計画作成

利用者の個別の機能訓練計画以外に、普段の日常生活動作の援助として、残存機能を活かした援助を生活リハビリとして行っています。今後、内容や援助の方法を統一し、リハビリ目標を共有しながら介護職員と連携が持てるよう取り組んでいく仕組みをつくることとしました。

6. 給食について

① 健康維持

配置医師、看護職員、介護職員、管理栄養士と協同し、体重コントロールや経口摂取の維持を図りました。

② 食生活の充実

給食担当職員が、日頃から各ユニットの介護職員や看護職員と協議し、入居者の体調に合わせた食形態の提供を行いました。食事形態を「嚥下調整食 学会分類2013」に沿い、トロミ材添加量の変更やソフト食の提供を開始し、利用者への嗜好調査を始めとするコミュニケーションにも力を入れ、意見や要望を引き出しました。それを基に利用者の望みを叶えた食事の提供に努め利用者からも大変喜ばれました。

おいしい食事は「健康の源」であり、「経口摂取」は生きがいとなりますので、季節の食材の選択や、調理へのこだわりにより、おいしい食事を提供することができました。

③ 衛生管理

食材の衛生管理として日付の管理、温度の管理、保存方法に留意しました。食材だけでなく、厨房で使用する調理器具や、冷蔵庫・冷凍庫などの厨房機器の衛生管理にも十分に配慮して業務にあたりました。細菌は、ヒトを介して食材に付着してしまうこともあるため、食材を扱う従業員の衛生管理もしっかりと行い、体調が悪い時には無理をしないことも徹底しました。

④ 非常食管理

非常時、緊急時に備え、食事提供がスムーズにできるよう非常食を見直し、備蓄品の入れ替えを行いました。

グループホーム合浦
令和5年度 事業報告書

① 年度の利用状況

利用者の状況（定員 18 名）

	延べ利用者数							平均 介護度	日数	利用率
	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計			
当年度	10	120	945	802	522	541	2940	3.2	2940	68%
前年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

② 利用者の年齢状況

	70 歳 未満	70～ 74 歳	75～ 79 歳	80～ 84 歳	85～ 89 歳	90～ 94 歳	95～ 99 歳	100 歳 以上	計	平均 年齢
男性	0	0	0	1	0	2	1	0	3	89
女性	0	0	1	4	1	4	1	0	11	86
総数	0	0	1	5	1	6	2	0	15	87
前年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

③ 介護度状況及び入居前の居所

	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	計	平均 介護度	利用者の前住所地		
									合浦 地区	その他	計
男性	0	0	0	1	0	2	3	4.3	0	3	3
女性	0	1	6	3	2	0	12	2.5	0	12	12
総数	0	1	6	4	2	2	15	2.8	0	15	15
前年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

④ 令和5年度【事故報告 ヒヤリハット】

発生年月	報告形態	件数	事故内容
4月	事故報告 ヒヤリハット	—	
5月	事故報告 ヒヤリハット	—	
6月	事故報告 ヒヤリハット	—	

7月	事故報告 ヒヤリハット	1件 0件	爪切り出血
8月	事故報告 ヒヤリハット	2件 0件	両膝に紫斑転倒の可能性、爪切り出血
9月	事故報告 ヒヤリハット	0件 1件	ヤクルトの容器が便器内で発見
10月	事故報告 ヒヤリハット	4件 0件	歩行器座面よりずり落ち、誤薬、夜間の転倒2件
11月	事故報告 ヒヤリハット	4件 2件	誤薬、目じりから出血、夜間ベッドから転落、夜間転倒 歯磨き時口の中に錠剤が残っていた、歩行不安定な1階の入居者が自力で2階へ
12月	事故報告 ヒヤリハット	6件 1件	夜間ベッドから転落、転倒し目を打撲、夜間転倒2件、右肩に不明紫斑、右手に不明紫斑 トイレで自分の尿汚染で滑って転びそうになった
1月	事故報告 ヒヤリハット	9件 1件	誤薬、脛に不明紫斑、爪切り出血、便座から転落、夜間の転倒、車いすから転落、歩行時転倒、夜間離園隣家で保護、石鹼ボトルを吸っていた 練歯磨きを顔と手に塗っていた
2月	事故報告 ヒヤリハット	13件 7件	誤薬2件、夜間転倒3件、漏便1件、車いすから転倒、バルーン自己抜去、足親指に不明紫斑、右目に紫斑、手小指の爪がはがれる、転倒おでこに傷、夜間他入居者の部屋侵入トラブル 服薬チェック表未記録、義歯の入忘れ、非常口から離園ブザーで気づく
3月	事故報告 ヒヤリハット	14件 1件	夜間ベッドから転落、歩行時転倒、車いすから転落、誤薬2件、誤嚥、扉に手を挟む、不明紫斑7件 義歯の入忘れ

⑤ 各委員会

・身体拘束廃止委員会

身体拘束等の適正化のための指針を整備し、身体拘束適正化に向けての現状把握及び改善について検討しています。

身体拘束にはどのようなことが当てはまるのか、介護職員が気づかずに身体拘束をしていないかの「見える拘束、見えない拘束など」について、職員の知識の向上を図りました。この身体拘束に対する理解の徹底を図る事により、日常的に行われている行為の中で利用者に精神的及び身体的ストレスを掛けていないかの検証を行い、身体拘束に対する意識を図り実践してきました。

・虐待防止委員会

虐待防止チェックリストを活用して、日頃の利用者支援が適切に行われているかの確認、課題の共

有、事業所の実態に則した検証等を行いました。

また、利用者支援の質の向上を目的とした全体での職員研修会を開催しました。

・感染対策委員会

今期は、特に新型コロナウイルス感染症に対する予防のため、社会情勢や感染者数等の情報を共有し、対策を講じました。それに対する必要な研修会にも力をいれてきました。

その他感染症を予防するため、種々の感染症の理解と予防する知識、ケア技術が必要なため、全職員向けに勉強会などの取り組みを行っています。引き続き、全部署による集団感染予防に対するさらなる徹底と、発生時の対応について十分な話し合いを重ね、訓練・シミュレーションを行いました。

以上

施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率	具体的達成状況												
健全経営	1 利用者数や稼働状況を常に分析し、稼働率の向上を目指す。	特養稼働率98%	90%	7月に退所者が5名となり、8.9月と満床になったが10月から11月にかけて7名の退所（うち5名が看取り）があり短期間に7名が退所されたことで、空床を埋めるのに時間がかかってしまった。看取りの方が多く、常に2~3人の看取り期の方をケアしている状況で、年間20名が退所となった。体調不良で長期入院の方も複数見られた。優先的待機者を適正数確保していくために、常に待機者との入所相談を重ねる必要がある。退所所者に対して入所者の受け入れを迅速にできなかったのが課題となった。												
	2 科学的介護を導入しケアの質の向上を図る。	LIFEの活用及びPDCAサイクルの構築に取り組む。	0%	個別機能訓練加算、栄養マネジメント加算、褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算については、加算要件に応じた書類作成には至らなかった。日常生活の中で継続されるケアにより利用者の状態の変化等を観察しその状態に合わせたケアを提供するに留まっている。												
地域貢献	地域の活性化、つながりの構築に向け、運営推進委員会（2ヶ月に1回）を開催し、多様な関係機関や個人との連携・協働を進め、気軽に集まれる居場所作りなど地域福祉課題に積極的に取り組みます。	①地域活動への参加 ②地域への情報発信	① 60% ② 80%	①②感染症の状況を見ながらだったが地域行事、地域ケア会議またはリモートへ参加。港町会へのねぶたへの参加も継続して行うことができた。運営推進会議を2か月に1回開催し、地域包括支援センターの職員や町会長への情報発信を行った。また、ささえ便りをホームページに掲載しましたご家族等にも配布した。感染症も落ち着いて来たため、気軽に相談ができ集まれる居場所作りが今後の課題である。												
利用者サービスの向上	1 利用者が自己決定・自己選択できる環境を作り望む暮らしが継続できるよう取り組む。	①不適切なケアの防止の取り組み ②職員研修参加の継続 ③行事	① 50% ②③ 100%	①不適切なケアの防止の取り組みは、研修や全体会議さらには職員間での日々の声かけにより、職員が日頃のケアの振り返りを行うことができた。しかし取り組みはできたものの実際に不適切なケアが気づかないうちに行われていたこともあった。 ②職員研修は年間計画に沿ってすべて行うことが出来た。職員が持ち回りで講師を行うことで自身のレベルアップにも繋がった。 ③年間計画通りに行事を行い、利用者に喜んでいただけた。今年度は感染状況を考慮しながら納涼会、敬老会をご家族を招待し行うことが出来た。												
	2 統一したケアを実施するため介護サービス計画書（ケアプラン）に基づき、多職種が連携しながら質の高いサービス提供を目指す。そのため、各種委員会活動を活性化させ、それぞれの責任や役割を明確にする。	①多職種と定期的に会議を実施 ②統一したケアの提供 ③各種委員会 ④看護職員による健康管理 ⑤管理栄養士による栄養管理 ⑥利用者健康管理	①③ 100% ④⑤ 50%	①ケアプランに基づいたケアを提供するために、機能訓練、管理栄養、看護、介護と月1回の会議を開催し情報共有しケアに活かすことが出来た。 ②月1回のカンファレンスによりケアプランに沿ったケアに心がけた。職員のサービスの内容の違いを生じさせて利用者を不安を感じさせることのないように日頃から職員間のコミュニケーションを密にし何かあった際には報告、相談できる体制を整えた。 ③褥瘡対策委員会、感染対策委員会、身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会 事故発生防止委員会を月1回行いました。 ④利用者の健康管理については、配置医、看護職員と介護職員等との間で情報交換、情報共有を図り、疾患の早期発見と早期受診につなげることができました。⑤給食担当職員が、日頃から各ユニットの介護職員や看護職員と協議し、入居者の体調に合わせた食形態の提供を行いました。利用者への嗜好調査を始めとするコミュニケーションにも力を入れ、意見や要望を引き出しました。それを基に利用者の望みを叶えた食事の提供に努め利用者からも大変喜ばれました。 ⑥利用者の誕生日に健康診断、その他インフルエンザ予防接種を行いました。												
人材確保（人材育成）	1 職員研修を実施しレベルアップを目指す。	①毎月1回の内部研修の実施 ②避難訓練への参加 ③外部研修への参加	①② 100% ③	①年間計画通り月1回の内部研修を以下の通り行いました。 <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td>感染症対策</td> <td>事故防止対策 口腔ケア</td> <td>認知症について</td> <td>接遇とコミュニケーション</td> <td>褥瘡予防</td> <td>虐待・身体拘束防止</td> <td>水害について</td> <td>感染対策・事故防止対策</td> <td>ユニットケアについて</td> <td>身体拘束・虐待</td> <td>介護記録</td> <td>看取り</td> </tr> </table> ②年2回（9月3月）に避難訓練を全職員が参加し行った。また業務継続計画についても机上訓練やミーティングでも話し合いをし浸透してきている。 ③ユニットリーダー研修、認知症介護実践者研修、10の研修テーマ、職種別研修等へ参加しそれぞれがレベルアップの機会となり実践に生かすことができています。	感染症対策	事故防止対策 口腔ケア	認知症について	接遇とコミュニケーション	褥瘡予防	虐待・身体拘束防止	水害について	感染対策・事故防止対策	ユニットケアについて	身体拘束・虐待	介護記録	看取り
	感染症対策	事故防止対策 口腔ケア	認知症について	接遇とコミュニケーション	褥瘡予防	虐待・身体拘束防止	水害について	感染対策・事故防止対策	ユニットケアについて	身体拘束・虐待	介護記録	看取り				
2 働きやすい職場の風土をつくる。	①職員が協力できる体制整備 ②健康管理 ③自己啓発 ④安全衛生管理	① 10% ②③④ 100%	①②定期的な職員の面談を行うには至らずにその都度相談や支援を行い家庭状況や健康状態に考慮した勤務ができるように配慮した。リフレッシュ休暇は取れなかったが、勤務状況をみながらの有給取得を行った。② 職員の定期健康診断、インフルエンザ予防接種、雇入時健康診断、腰痛検査、給食職員検便検査ノロウィルス検査・夜勤者健康診断は全て行い職員の健康管理に努めた。 ③職員のレベルやスキルに合わせたユニットリーダー研修、認知症実践者研修等に参加することができた。 ④消防設備・電気設備・AED・ポイラー・受水槽（掃除）・井戸水質・レジオネラ菌点検、施設内外大掃除													

施設目標	施設の具体的目標	指標・成果	達成率	具体的達成状況										
健全経営	1 令和5年6月の開設に向けて利用者の確保に取り組む。	利用者の満足度、家族との信頼関係を形成して、利用目標値の達成に努めます。	80%	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の100%確保は達成できなかったが、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関への情報発信を定期的に行い、また、情報交換等は常に行い利用者の確保や適正な運営につなげる取り組みをしてきた。 ・ホームページにホーム便りを掲載し日ごろの暮らしぶりを発信することにより、広く合浦の取り組みについて知っていただけるきっかけとなった。 										
	1 施設を知ってもらうために、地域の方々への情報発信を行い、地域の活動へ積極的に参加し、信頼関係を築く。	①地域活動への参加 ②地域への情報発信	① 80% ② 70%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練の参加や地域行事のねぶた祭り参加、地域ケア会議への出席など可能な限り地域との連携に努めることができた。 ・運営推進会議（2か月に1回）の開催では、地域の方との情報交換や施設での取り組みを報告することにより、理解を深めてもらうことができた。家族や地域の民生委員にホーム便りを配布することで交流のきっかけづくりになった。 ・今後の課題として、もっと地域の方に広く施設の役割を理解していただき、相談窓口としての機能していく。 										
利用者サービスの向上	1 利用者の一人ひとりの状態に合わせて統一したケアができるよう、ケアプランに沿ったサービスを提供する。	①統一したケアの提供 ②職員研修参加	① 80% ② 70%	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで作る介護計画書を意識し、本人がより良く暮らすためのケアのあり方を本人・家族、職員で話し合い、取り組んできた。統一したケアの提供については努力してきたが、新人職員による理解をもっと深める必要があると感じる。 ・利用者本位という大原則をもう一度確認し、実際に提供しているケアの内容や方法がそれに基づいたものであるかをチェックする。① ・毎月の施設内研修を実施しスキルアップを図ってきた。 										
	2 ケースカンファレンスの開催による評価、個別ケアの検討、振り返りによる「気づき」を促進し、他職員を巻き込みながら現場に展開していく。	①定期的に会議を実施 ②認知症ケアの質の向上を図る ③行事 ④利用者健康管理	①③ 100% ④ 50%	③	ドライブ	ねぶた祭り	納涼会	敬老会	ドライブ・買い物	紅葉狩り	クリスマス会	お正月	節分	ひな祭り会
人材確保（人材育成）	1 職員研修を実施しレベルアップを目指す。	①毎月1回の内部研修の実施 ②避難訓練 ③外部研修への参加	100%	①	認知症の基礎知識	虐待・身体拘束防止	感染対策・事故防止対策	看取り	高齢者の病気 防災訓練	虐待・身体拘束防止	感染対策・事故防止対策	接遇	介護記録	プライバシー・個人情報保護 防災訓練
	2 働きやすい職場の風土をつくる。	①職員が協力できる体制整備 ②健康管理 ③自己啓発 ④安全衛生管理	① 60% ②③ 60% ④ 100%	①②	<ul style="list-style-type: none"> ・入職1か月での面談を実施してきたが、気軽に話せるような場を設ける取り組みに少し欠けていたように感じる。来期の課題とする。 ・有給休暇の取得や希望どおりの休暇がとれるように、常に配慮し働きやすい職場づくりを意識し取り組んできた。 									
				③	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのケアの実践や力量を把握し法人内外の研修を受ける機会の確保に取組み、資質の向上につながったと感じる。 									
				②	<ul style="list-style-type: none"> 6月からの入職に伴いその都度、雇用時健康診断を随時行った。インフルエンザ予防接種を全職員が受けた。 									
				④	<ul style="list-style-type: none"> 消防設備・電気設備・ボイラー・施設内外大掃除 									

事業報告の附属明細書

令和5年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人 慈青会